

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 15日現在

機関番号：32685

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520269

研究課題名（和文） 21世紀オーストラリア文学に表れる日豪関係：

多文化主義と太平洋戦争の影響

研究課題名（英文） The Japan-Australia Relationship as Represented in 21st Century Australia Literature with Special Emphasis on Multiculturalism and the Pacific War

研究代表者 加藤 めぐみ (KATO MEGUMI)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号：30247168

研究成果の概要（和文）：本研究は、以前からの研究代表者によるオーストラリア文学における日本人描写変遷の研究を発展させ、21世紀にいかなる展開があったかを検証するものである。アジア太平洋地域にありながらヨーロッパ的国家建設を目指したオーストラリアの文学においては、相容れぬ「他者」としての日本人描写が典型であった。だが太平洋戦争での直接対峙及び戦後の多文化主義政策実施により豪社会が描く日本人像には変化が見られた。21世紀に入って書かれた文学作品には、その影響の延長として新たな日本人像の創造が認められる。これにより社会と文学の相互作用、また文化の仲介者となる作者の役割を例示することができたと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This research is based on the researcher's former topic: representations of Japan and Japanese people in Australian literature. It further explores how the typical descriptions of the Japanese, "unknown other", in Australian literary works before the Pacific War have been changed under the influence of war experiences and Australia's policy of multiculturalism, thus giving new representations of the Japanese in Australian writings in the 21st century. It shows social changes and literature have reciprocal influence, and that the roles of authors are significant as "cultures-go-between".

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：日豪関係、オーストラリア文学、太平洋戦争、多文化主義、英語圏文学

1. 研究開始当初の背景

本研究の構想にあたり基盤となったのは申請者が平成8年より行ってきたオーストラリア文学にみる日本及び日本人の描写変遷

の研究である。オーストラリアはイギリスの植民地から始まり英語圏文化を有しつつ、連邦結成時の白豪主義から1970年代以降は多文化主義政策に転換、移民による複合社会国家、かつアジア・太平洋国家としての独自の

ポストコロニアルの道を歩んできた。この歴史的背景と地域性により、他の旧イギリス系植民地であるアメリカやカナダとは異なる特殊性を有する。その文学に表象される日本人の描写には、19世紀から20世紀にかけての植民地時代からポストコロニアリズムの時代を経たオーストラリア社会の変化の一面が映し出されている。

これを文学において検証することにより、地域研究としてのオーストラリア社会・文化・文化の歴史の一側面を明らかにすると共に、「他者」日本人がオセアニアのこの地域においていかなる印象を与え、人々の意識の中でどのような位置を占めてきたか辿ることとなった。

オーストラリアから見た日本についての先行研究はオーストラリア国内では幾つか散見されるものの、文学作品による分析は他に類を見ない。Edward Said の *Orientalism* (1985) を始め、Gayatri Spivak の *In Other Worlds: Essays in Cultural Politics* (1987)、Homi Bhabha の *The Location of Culture* (1994) にある「他者」や「文化的仲介者」の論を援用しつつ、日豪両国の接触が始まる19世紀から20世紀末までのオーストラリア文学に見る日本人像を140余りの文学作品から読み取り分析したこの研究を、博士論文にまとめ2005年にUniversity of New South Walesに提出、受理されている。(2008年に *Narrating the Other: Australian Literary Perceptions of Japan* として Monash University Press より出版。)

本研究は、背景となる上記の研究をさらに発展させ、21世紀に入り10年近く経たあいに日豪関係が文学作品でいかに表象されたか、また社会と文学の関係性について検証することを目指した。

2. 研究の目的

本研究は、1で述べた研究をさらに進展させ、21世紀に入り10年以上経たあいに日豪関係が文学作品においてどのように表象されたかを追って検証することを目的とした。上記の研究を進める上で、研究代表者は、第二次大戦後の日豪関係が政治・経済・外交偏重である一方、オーストラリアの実社会においては太平洋戦争以前の仮想敵・次に戦争中の実際の敵・さらに戦後のかつての敵として公的記憶に残る日本のイメージが強く、それが文学作品に顕著に表れていることを実感していた。軍・民間を問わず、犠牲者が称えられ、オーストラリアの複合民族社会を束ねるため、また国としてのアイデンティティ創出のためにこの公的記憶が利用されていると考えられる。それを超える日本人の

イメージが文学に登場するか否かを21世紀の作品を負うことによって明らかにすることを目的としている。

具体的には、先の研究でカバーできなかった1990年代末から2010年までに書かれた豪文学文献を収集・分析した。ことに、主流派といわれるアングロ=ケルティック系の男性作家だけでなく、近年増加している先住民系及びアジア系作家などのいわゆるマイノリティ作家も取り上げ、多文化化したオーストラリア社会の特徴を探った。

これを先の研究と併せ、オーストラリア社会の変遷と豪文学史の一側面として取りまとめ、1の「背景」で述べた単著 *Narrating the Other: Australian Literary Perceptions of Japan* に加筆したものとして日本でも刊行を目指し、成果を双方向に公表する予定である。(2013年度科学研究費・成果公開促進費「学術図書」に採択されたことにより、2013年12月に図書として刊行されることになっている。)

3. 研究の方法

2010年度、2011年度は主に一次資料としての文学作品と二次資料として批評や文学理論書を収集・分析した。また日本、オーストラリア双方において研究者や作家と面談し情報を得て、研究への支援と助言を仰いだ。

具体的には、2010年4～7月に資料文献表を作成し、8月にキャンベラのオーストラリア国立大学(ANU)、国立図書館、戦争記念館、公文書館で収集にあたった。またANUのハック・ネルソン教授、田村恵子博士と面談、主に太平洋戦争と日豪関係について研究打ち合わせを行った。また作家・研究者のゲイル・ジョーンズ氏と面談、その著書の背景について詳細な説明を受けた。9月以降に収集した資料の分析にあたり、関連論文の執筆を行った。5に示した『新版オセアニア事典』に成果の一部を応用した。

2011年度は、引き続き資料の分析と論文執筆を行った。8月にブルームに赴き歴史博物館、公文書館、ノートルダム大学で資料を収集、また続いてキャンベラで補足資料を収集した。9月以降はその分析にあたり、論文執筆を行った。12月にはパースで文学史的にみたブルームと和歌山県太地町の19世紀からの関係を21世紀の日豪関係のコンテキストで問い直す発表を行った。西オーストラリア大学の曾根幸子研究員と研究打ち合わせを行う機会も得た。また3月には成果の一部として集英社「コレクション 戦争と文学」の15回配本『戦時下の青春』付属の月報10号に「オーストラリア文学と戦争—太平洋戦争を中心に」を掲載し一般読者への成

果還元の機会とした。

2012年度には8月にキャンベラのオーストラリア国立大学、国立図書館、戦争記念館、公文書館、国立音声映像文書館で補足資料を収集し、以後分析にあたった。さらにそれらをまとめ、先の研究成果と併せて初期から21世紀にかけての豪文学における日本人表象の論文として体系化した。5に示すように、7月には東京大学太平洋地域研究センターシンポジウムで、12月にはアデレード大学での国際学会で口頭発表により成果の一部を発表した。

5と6に示すように、3年間を通じてその成果を論文、学会、著作で発表した。ことに日本・オーストラリア双方向への成果の発信を目指し、日本語及び英語での論文執筆と口頭発表を行った。

また研究分担者として所属した「文明と身体」研究会（国際日本文化センター、研究代表者：牛村圭）及び「真珠・ナマコをめぐるモノとヒトの移動と国際関係—日本、オーストラリア、インドネシアをつなぐ海の交流」（科学研究費基盤研究（B）、研究代表者：内海愛子）においてその成果の一部を共有した。

4. 研究成果

これまで行ってきたオーストラリア文学に表象される日本人像についての研究では、豪社会における日本への認識には典型化と偏りがあることが伺われた。ステレオタイプ化された日本人描写の典型は、太平洋戦争という直接対峙により崩される結果となった。だが一方、この戦争が豪国民の公的記憶において多民族複合国家を束ねる装置として働き、敵としての日本人像が依然として残ることも十分に示唆された。

やがて21世紀になると、それを超えて新たな日本人像を登場させる作家が表れるようになる。それが主に女性作家の手によることは興味深い。オーストラリア社会においてこれまでの欧米志向の価値観や信条が揺らぎ、新しい世紀を迎えて方向性が問われたときに日本に一つの答え、すなわち「メンター」としての役割を見出そうとする作品が続いた。オーストラリアの「エトス」を作り上げている歴史認識、公的記憶の構築、社会的通念が再び問い直されているとき、日本人表象にも変化が表れたのである。これは同時に日豪関係の変化の表象でもあり、両国が辿った軌跡の一側面を示すことにもなった。

本研究は、白豪主義と日本への敵対意識という歴史的背景、太平洋戦争という実際の衝突、さらに戦後の多文化主義社会への変革の中で、文学作品において「他者」日本人をい

かに語ってきたかを辿ることにより、豪社会の変化を検証し、社会趨勢と文学の相互作用及び作者という文化の仲介者の役割を示すこととなった。

オセアニア地域オーストラリアの文学研究は日本では未だ十分に進められていない。だが同じアジア・太平洋地域に属し、あらゆる分野で関わりが深い両国の文化的交流を促進する上で、本研究は歴史・社会・文化に跨る学際的意義があるものと考えられる。単に英語圏文学としてのオーストラリア文学を紹介しただけでなく、日豪関係というコンテキスト、またオーストラリア通史というコンテキストの中での豪文学史を示したともいえよう。

具体的な成果としては、5で示した論文や学会発表、著書が挙げられるが、その他に集英社「コレクション 戦争と文学」の15回配本『戦時下の青春』付属月報10号に「オーストラリア文学と戦争—太平洋戦争を中心に」を掲載し、一般に向けた成果発表も行った。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① Megumi Kato, “Letting Literature Speak in Today’s University Courses: An Example of Using Broome-Taiji Relationship”, 『南半球評論』、査読無、第27号、2011年、pp. 41-48.
- ② 加藤めぐみ「オーストラリア文学に表象される太平洋戦争」『科学研究費共同研究成果報告書「戦争、市民、ネイション—オーストラリア、インドネシア、日本を繋ぐ太平洋戦争の記憶」課題番号9510263 名古屋商科大学 研究代表者鎌田真弓』査読無、2010年、pp35-44.
- ③ 加藤めぐみ、「競争から共存へ？日豪関係と文学」『南半球評論』、査読無、第26号、2010年、pp28-31.

〔学会発表〕（計3件）

- ① Megumi Kato, “Desire to See the Other: A Literary Example of Race Relations in the Case of Broome”, Australian Critical Race and Whiteness Studies Association Conference: Racialising Desire, 2012. 12. 11., Adelaide University, Australia.
- ② Megumi Kato, “Australians in the

Pacific War: Reflections through a Japanese Mirror”, Imagining the Pacific, Imagining Australia, 2012.7.27., 東京大学アメリカ太平洋研究センター

- ③ Megumi Kato, “How to Let Literature Survive in University Courses in the Era of the Digital Revolution: In the Case of Australian Literature in Japan”, The 14th Biennial Symposium on Literature and Culture in the Asia-Pacific Region”, 2011.12.5., The University of Western Australia, Australia.

〔図書〕（計 2 件）

- ① 小林泉、加藤めぐみ、石川栄吉、越智道雄、百々佑利子監修、平凡社『新版オセアニアを知る事典』、2010年、総ページ数 491、担当オーストラリア文学関連項目：pp.45-6, 99-100, 290, 304-5, 313, 376-8.
- ② 鎌田真弓、加藤めぐみ他、御茶の水書房、『日本とオーストラリアの太平洋戦争—記憶の国境線を問う』、2011年、総ページ数 264、担当第 10 章, pp. 192-211.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 めぐみ (KATO MEGUMI)
明星大学・人文学部・教授
研究者番号：3 0 2 4 7 1 6 8

(2) 研究分担者 なし

()

研究者番号：

(3) 連携研究者 なし

()

研究者番号：